小笠原

編集兼発行
公益財団法人 小笠原協会
東京都港区海岸１-12-２
竹芝客船ターミナル２階
電　話 03－3432－4921
ＦＡＸ 03－3432－4487

振替貯金口座(郵便)
00190－９－64610
みずほ銀行芝支店
普通 3242428

# 平成29年度 小笠原諸島振興開発事業費予算について

## 振興開発事業費　19億6千7百万円

### Ⅰ 小笠原村の現況

小笠原諸島振興開発特別措置法に基づく振興開発計画（平成26年度から平成30年度）が半ばを過ぎました。開発計画の諸事業は、自然環境の保全と両立を図りながら、計画の達成に向けて着実に推進されています。

昨年7月には、新しい「おがさわら丸」と「ははじま丸」が就航。両船とも大型化し、より快適な船旅ができるようになり、運行時間も短縮されました。新船によって小笠原の暮らしや産業に多くの恩恵をもたらすことが期待できます。

来年には返還50周年という大きな節目を迎えますが、昭和43年の返還から、小笠原を取り巻く生活環境や産業構造、村民ニーズも大きく変化してきました。返還当初の施設の更新、産業構造の変化など、新たな課題が生まれています。

平成29年度の振興開発事業費は、このような背景を基に、共同利用施設の整備、保育施設の整備等を主な増額要素として予算化されました。

### Ⅱ 振興開発事業の概要

平成29年度の事業費は19億6千7百万円となり、平成28年度の事業費44億4千万円から6割減となっています。新船が完成し、建造に伴う事業費が減となったためです。

#### 1 小笠原諸島振興開発事業費補助

住民生活の安定と定住の促進、小笠原の自立的発展の根幹となる産業基盤施設等整備事業を実施する。

①産業基盤施設等整備費補助

ア 港湾整備（都事業）：二見港の岸壁及び防波堤改良工事、沖港泊地の浚渫工事

イ 農業・水産業基盤整備ほ場造成、漁港の振興予算

◆ほ場造成（都事業）

農業用水槽をコンクリート製水槽へ交換する工事

ウ 農業・水産業振興

水産センター、共同利用施設の振興予算

◆水産センター（都事業）

非常用発電機の更新工事

◆共同利用施設（団体）

漁船船員厚生施設の工事

エ 観光振興：自然公園、都市公園の振興

◆自然公園（都事業）

来島者の増加を踏まえた歩道整備、自然環境モニタリング調査や外来種対策含む植生回復、自然ガイド事業

◆都市公園（都事業）

大神山公園の景観整備、施設拡充、急傾斜地対策

②生活基盤施設等整備費補助：道路整備、生活環境施設等の整備事業

ア 道路整備：都道村道の振興

◆都道（都事業）：父島夜明道路及び母島北進線の災害防除事業

◆村道（村事業）村道のトンネル点検等

イ 生活環境施設等整備

簡易水道、し尿処理施設、浄化槽施設、保育施設、砂防の振興

◆簡易水道（村事業）

配水池の更新工事、第2原水調整池の躯体築造等

◆し尿処理施設（村事業）

父島のし尿処理施設の汚泥処理設備の改良工事

◆保育施設（村事業）：母島保育施設整備設計、調査等

◆砂防（都事業）

時雨川の砂防対策工事

#### 2 小笠原諸島振興開発費補助金

病害虫等防除、診療所運営、各種調査

①病害虫等防除：ミカンコミバエなどの防除、試験研究

ア 防除（都事業）：ミカンコミバエ再侵入警戒調査等（継続）

イ 試験研究（都事業）

ミカンコミバエ等の指定病害虫及び一般病害虫防除の試験研究（継続）

②診療所運営（村事業継続）

診療所管理運営、スタッフや機材の確保等の整備運営

③各種調査（都事業）

観光振興事業として九州・中国・四国地域での二ーズ調査やルート分析・検証など新市場開拓調査

## 小笠原協会 平成29年度事業

法人小笠原協会の事業と予算が決定されました。経常収益1498万6千円、経常費用1503万5千円、収支計画上は△4万9千円の予算です。主要な事業としては、前年までに、設立50周年事業が終わり、平年度化しています。

①機関紙等刊行物：年4回の機関紙と年1回の特集号の発行

②ホームページの運営

③小笠原交流ツアーの実施

④おがさわら丸の運賃割引証明の発行

⑤国及び自治体、諸団体の実施する事業への協賛等

⑥意見交換等による情報収集

小笠原諸島の振興開発や産業振興・観光等に関する情報収集

この他、協会所蔵資料の保全や帰島促進のための相談などの事業を実施します。

### 返還50年の節目を目前に

当協会は、一昨年の平成27年に設立50周年を迎えましたが、終戦後一貫して、島の返還と島民の帰島支援の活動を進めてきました。来年、平成30年には、昭和43年の小笠原諸島返還から50周年を迎えます。戦前の強制疎開時、7千7百人の島民は、現在、2千6百人であり、従前からの居住者は僅かです。このことは昭和20年の終戦から昭和43年までの空白の23年間とそれ以降50年間の帰島がいかに困難なものであったかを物語っています。また、強制疎開から70年以上たった今も硫黄島には帰島が許されず、戦争の傷跡が残されています。今も、帰島の叶わない旧島民とそのご子孫の望郷の想いは強く、かつてのような平和で豊かな島への復活が望まれます。さらに返還直後に決められた暫定措置が未だに継続されているなど特殊で複雑な事情があります。返還50年の大きな節目に、今一度、歴史を顧みて、残された課題の解決に向け、力を尽くしていきたいと考えています。また、当協会には、返還運動前後の帰島に向けた活動記録や、歴史的な資料がありますが、資料の劣化が著しく、この保全に努めていきます。

### 役員新体制の発足

当協会は、平成25年4月に公益財団法人に移行して丸4年が経ちました。この6月に全役員が任期満了となり、評議員会、理事会の決議を経て新体制が発足しました。今回の体制では、鍋島茂樹会長が退任し、後任の会長には常務理事の渋井信和氏が就任しました。また、評議員の江本ヒデ子氏、菊池武氏及び監事の木村ジョンソン氏が退任いたしました。長い間、協会を支えて下さり大変ありがとうございました。なお、新会長等のご挨拶は次号で掲載させて頂きます。

## 小笠原諸島返還50周年に向けて

戦後73年目を迎える来年、小笠原諸島は返還50周年の節目を迎えます。

小笠原村では、既に、記念事業に向けたキャッチコピーとシンボルマークを一般公募し、キャッチコピーは、「夢受け継いで50年、未来へ羽ばたけ小笠原」矢吹美智子氏（栃木県）、シンボルマークは宮崎信行氏（東京都）の作品に決定しています。

プレ・イヤーにあたる今年から様々なプレイベントを予定しています。

5月には、小笠原ヨットレース2017が開催され、5月2日に二見港をスタートし、三浦半島を目指しました。また、毎年、返還記念日前後に父島・母島両島で開かれる返還祭・父島のサマーフェスティバル・母島納涼祭等もプレイベントとして行われ、小笠原村では日を追うごとに機運が高まってきています。

来年度は、祝賀会やパレード、父島での記念式典を開催予定です。また、歴史・文化啓発事業としての返還50周年記念誌の制作も進行中です。他にも有識者を招いてのシンポジウムや村民の皆さんが楽しみながら参加することのできるイベント、内外に向けた高校生の交流など、様々な行事の計画が進行中です。

## 歴史的な渇水　小笠原村の給水制限が解除！

昨年は6月から少雨が続いていましたが、夏にも台風などによる降雨が無かったために秋以降から水不足が懸念されていました。

今年に入り小笠原村の渇水状況はさらに深刻度合いを増し、4月中旬には父島で貯水率20％を切り、母島でも38．5％となりました。これは1980年以来実に37年ぶりの低い水準で、今回の水不足がいかに非常事態であったかという事を物語っています。（表1）

村の渇水対策本部では、村民への節水のお願いと減圧給水等の使用制限を継続的に実施するとともに、5月初めから3台目の海水淡水化装置を導入しました。これにより村所有の装置と内地から借り受けた装置と併せて一日当たり320㎥の水量を確保できることになりました。これは、父島の一日当たりの想定使用量580㎥の55％に相当します。しかし、この時点で「今後全く降雨がない場合に、ダムの水すべてを使い切ってしまうXデーが8月下旬」と想定されていました。

今年4月以降の状況（父島）を時系列にまとめると次の通りになります。

4月下旬
総貯水率17％

4月22日　土砂降りの降雨後19．5％

4月末（GW付近）小雨、霧雨24％

4月下旬～5月前半にかけて微増し、5月中旬28％

そして、5月23日待望の雨！これは、大雨警報、土砂災害警報が発令されるほどの降水でした。（被害はありませんでした）

この雨により母島は、5月23日に貯水率100％、父島は翌24日に同81．4％。

同日全ての給水制限が解除され、昨年来、懸念され続けてきた小笠原村の水不足は、一日の降雨で解消されました。右の写真は、渇水時と満水時の時雨ダムです。

節水は、昨年10月から長期に亘り、仮に給水制限が更に延びれば、村の主要産業である観光業への打撃は必至となり、観光客に影響をもたらす恐れもありました。また、何より村民の生活に多大な影響を及ぼしました。

公共施設のシャワーは約8か月ぶりに復活し、掃除や洗濯、トイレや洗車など水を必要とした日常の出来事が、渇水以前に戻りました。

小笠原は、ゴールデンウィーク明けから1か月位は雨が多く、本土が梅雨入りする頃には、太平洋高気圧に覆われて、穏やかに凪いだ海が多く見られます。

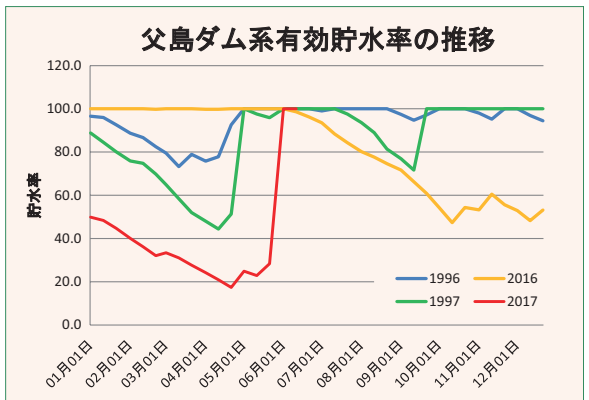



表1　父島におけるダム系有効貯水率の推移を示したグラフです。5月27日、貯水率は100%に回復しました。

満水時

渇水時

# 平成28年度　第17回小笠原訪問・交流ツアー

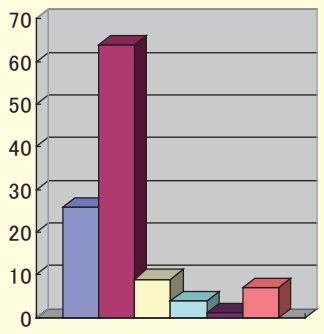
**昨年、平成28年は、11月1日～6日までの期間に、参加者200名で小笠原交流ツアーを実施しました。**
**島への到着当日は、父島、母島に分かれて島の方々との交流、心のこもった厚いおもてなしを受けました。**

（イベント主催：公益財団法人小笠原協会、ツアー主催：小笠原海運株式会社）

## （アンケート集計結果）

以下、28年度の交流ツアーアンケート結果（抜粋）です。多くの参加者の方々からご満足いただいたとの回答を頂きました。記述回答は、象徴的な内容を掲載しました。

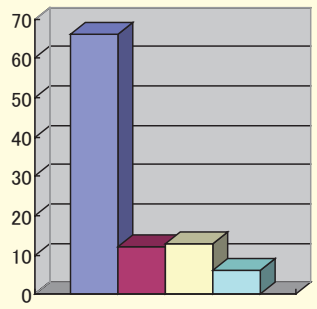
### 1 今回のツアーを何で知ったか？（複数回答）




| | |
|---|---|
| 協会からのダイレクトメール | 26 |
| 親戚、友人、知人から聞いた | 64 |
| 機関紙「小笠原」 | 9 |
| 協会のホームページ | 4 |
| 協会のフェイスブック | 1 |
| その他（海運HP、自分で情報収集） | 7 |

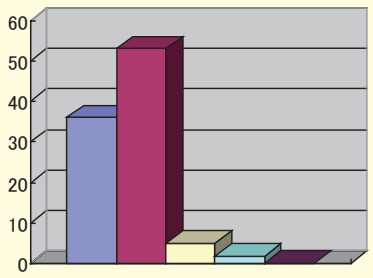
### 2 過去の参加状況

**ツアー参加回数**




| | |
|---|---|
| 初めて | 66 |
| 2～4回 | 12 |
| 5～9回 | 13 |
| 10回以上 | 6 |

### 3 ツアーの満足度




| | |
|---|---|
| 大変満足 | 36 |
| 満足 | 53 |
| 普通 | 5 |
| 不満 | 2 |
| 大変不満 | 0 |

**（交流）**

- このツアーならではの交流会があり温かい人々とのふれあいが良かった
- おもてなしのお料理がおいしかった
- 交流会で島の方と交流できたこと
- 母島交流会・往きの（船からの）夕日・宿泊所の歓待・父母展望台での眺め
- 交流会でいろいろと島の食材が食べられた
- 島の方々がとても親切で心が温かい気持ちになりました

**（新船・航海・ツアー）**

- 新おが丸、サイコー。抜群！
- 新船の使い勝手が格段に良い、宿も文句なし
- 乗船手続きが手間なく、何よりも低価格なところ
- ツアー料金が格安でOPツアーも割引があり有難かった

**（イベント行事等）**

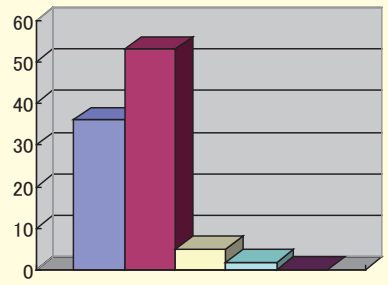
- 観光を兼ね世界遺産を見学できた
- オプショナルツアーのガイドの皆さんが親切にしてくれた
- 初めての24時間の船旅、そして何より父島の大自然と人々
- ブランクダイバー、久しぶりのダイビングを楽しめた
- 沢山の自然や島料理、戦跡ツアーやサンクチュアリーの見学など普段経験できないもの

**（自然）**

- 自然、きれいな星空、素晴らしい海の色
- 初めて小笠原の自然に触れることができた

### 4 食事について

**（1）宿の食事はいかがでしたか？**



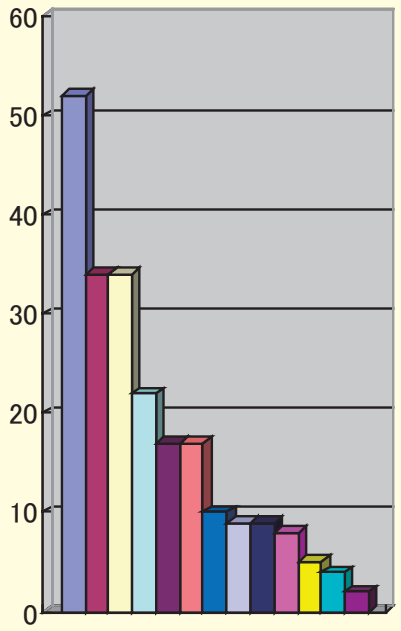

| | |
|---|---|
| 大変満足 | 26 |
| 満足 | 41 |
| 普通 | 17 |
| 不満 | 3 |
| 大変不満 | 1 |

**（2）感じた理由**

- 現地食材を使った美味しい料理だった
- 島でしか食べられない珍しいものをたくさん食べられたこと
- 小笠原の家庭料理（島寿司、カメ料理、島野菜）を堪能した

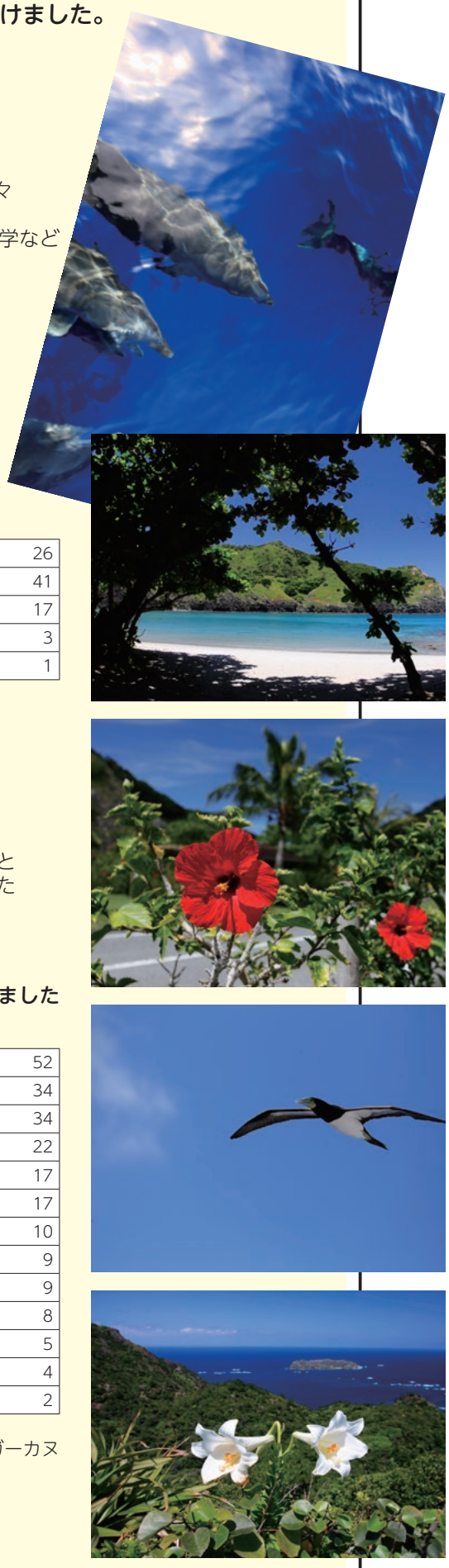
### 5 イベント・行事について

**（1）小笠原滞在中にどのようなイベントに参加、体験されましたか？（複数回答）**




| | |
|---|---|
| 山歩き | 52 |
| ドルフィンスイム | 34 |
| お祭り | 34 |
| 戦跡ツアー | 22 |
| ナイトツアー | 17 |
| 南島遊覧 | 17 |
| ダイビング | 10 |
| シュノーケリング | 9 |
| ホエールウォッチング | 9 |
| その他 | 8 |
| 釣り | 5 |
| シーカヤック | 4 |
| サンセットツアー | 2 |

その他（ヨガ、アウトリガーカヌー、島歩き、里帰り）



写真：小笠原村提供

# 返還50周年プレ・イヤー　今年こそ行こう!小笠原

## 今年も実施します「小笠原訪問並びに交流ツアー」

**ツアー期間**　平成29年10月31日（火）から11月5日（日）までの5泊6日
（民宿・ホテル等に3泊）※さらにもう一便滞在可能な延発コースもあります。

**イベント主催**　公益財団法人　小笠原協会　（Eメール　kzho@ogasawarak.jp）
☎03－3432－4921　fax 03－3432－4487

**旅行主催**　小笠原海運株式会社　（東京都知事登録2-2135）
☎03－3451－5171　fax 03－3451－4522

**後援予定**　小笠原支庁、小笠原村役場、小笠原村観光協会、小笠原母島観光協会、小笠原島漁業協同組合、小笠原母島漁業協同組合、小笠原村社会福祉協議会、小笠原村商工会、東京島しょ農業協同組合小笠原父島支店・母島店

**募集期間**　平成29年7月25日（火）～9月29日（金）

**募集人員**　200名　（最少催行人員　50名）
期間内に募集人員に達した場合は、受付を締切ります

**参加対象**　小笠原関係者及び小笠原を愛する人並びに未訪島の人

**参加費**（子供：6歳以上12歳未満）

| | 宿付き | | 乗船券のみ | |
|---|---|---|---|---|
| | 大人 | 子供 | 大人 | 子供 |
| 2等和室 | 58,000円 | 35,000円 | 36,000円 | 20,000円 |
| 2等寝台 | 62,000円 | 37,000円 | 40,000円 | 22,000円 |

◎参加費には、竹芝・父島間の2等往復運賃と3泊の宿泊代（朝食3・夕食2付）及び旅行傷害保険料等が含まれます。
◎ただし、乗船券のみの方は、宿泊代は自己負担となります。
◎現地宿泊を一人で一室使用の場合は、1泊2,000円、3泊で6,000円増しです。
◎航海中の食事代、島での昼食代及び父島・母島間の運賃は自己負担です。
◎6歳未満の幼児は船賃が無料ですが、宿泊施設の宿泊料は現地で必要になります。
◎母島も宿泊先確保に努めますが、母島の宿は絶対数が少ないため、母島訪島希望の方は、事前に皆さまにて直接宿を確保されることをお勧めします。
※問合せ先：母島観光協会　☎04998－3－2300
◎お申し込み後のキャンセルは、キャンセル料金が発生することがあります。
詳細は小笠原海運　☎03-3451-5171　にお問い合わせください。
※ツアーのお申込み、お問合せは、公益財団法人小笠原協会まで

# 小笠原ブラッドローテーション輸血医療体制の仕組み（続き）

元小笠原村診療所長　笠井あすか

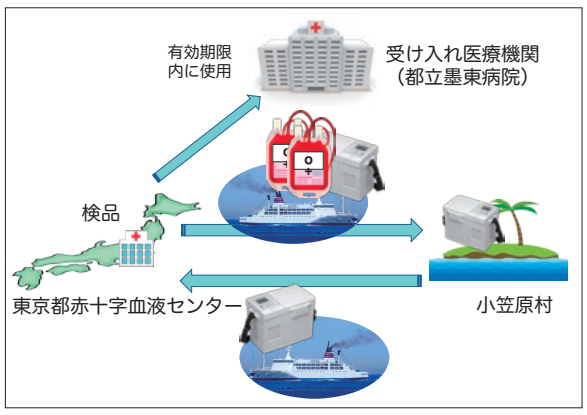
前号でご紹介したとおり、緊急手術やより高度な専門的治療が必要な救急患者は、島には空港がないことから海上自衛隊の協力のもと、ヘリコプターや海上に離発着する飛行艇で本土の都立病院等へ搬送している。地理的要件、交通アクセスの点から小笠原村立診療所では、医療資源にも限界があり、診療所の規模からも治療内容は必然的に制約されている。なかでも、待ったなしで命に係わる救急医療は苦労が多い。

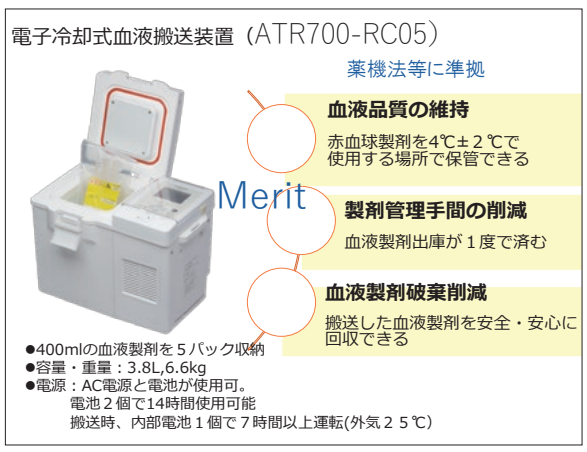
平成16～24年度の小笠原諸島の合計266症例の急患搬送記録では、急患搬送要請から収容病院着までの搬送時間は平均10時間35分であった。患者の来院から、診察、検査、内地受け入れ病院との調整、本人や家族への説明・同意、急患要請書作成等、実際はさらに時間を要する。天候問題や長時間搬送時の容態の悪化、数種類の航空機と救急車の乗り継ぎ時の移動など、他の離島にはない小笠原諸島ならではの問題がある。

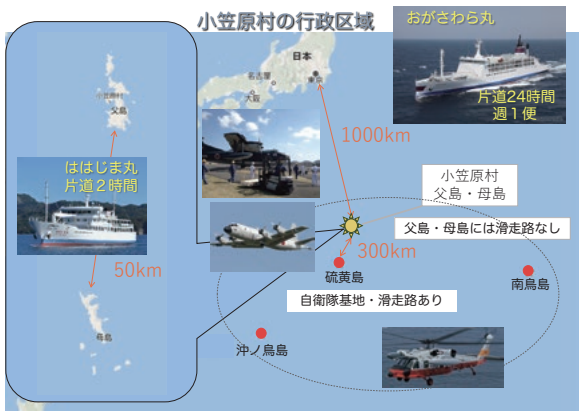
日赤来島時の母島運搬等検証模様

ATR700のヘリ積載グランドラン試験風景

2015/5/21 東京消防庁立川航空隊にて




そのような背景の中、島での血液製剤備蓄体制の整備は、小笠原村立診療所医療スタッフにとって長年の課題であった。安全、確実に輸血が可能になれば、救命率、予後の改善につながる。更に高齢者の慢性貧血の患者に対し、島での治療が可能となる。

## 備蓄を阻む大きな壁

血液製剤の保管は常時2℃～6℃の低温が条件である。小笠原での保管を前提とすると、日本赤十字社からおがさわら丸での血液搬送だけで優に24時間を超え、亜熱帯性気候の小笠原への搬送は温度が変化する中、庫内温度は一定でなければならない、一度払い出せば、使わなければ廃棄することになるのが現状のルールである。小笠原では血液製剤の使用頻度が少なく、血液製剤を払い出しても廃棄率が高くなる。さらに、高額な保管設備への投資は困難である。

## 画期的な血液搬送保管装置

血液搬送保管装置ATR－700の開発、改良は、平成23年の小笠原諸島の世界自然遺産登録に伴う観光客の増加、緊急医療ニーズの高まりに後押しされ、小笠原村と日本赤十字社の使命感と熱意を受けて、CBCエスト株式会社が全てを担って研究を継続した。

保管装置に求められた条件として

第1に、少なくとも全国の気温条件の中で対応できることが要求される。我が国の主要都市部の年間最低気温と最高気温であるマイナス10～35℃の幅の中でも、25時間以上庫内温度を2～6℃の保管温度に維持する必要がある。また、搬送先の診療所でそのまま血液保管庫として製剤の使用期限まで温度を維持できる必要がある。

第2に、装置の軽量化である。手軽なヘリコプター等での機器搬送を想定し、庫内に赤血球製剤RBC－LR2（2単位）を5パック収納でき、総重量は10kg以下で人が容易に運べること、

第3に、品質管理の要求から庫内温度、扉の開閉が記録できることが要求された。

この検証のため、おがさわら丸にATR－700を搭載し全行程データが記録された。こうした経過を踏み、

① 温調方法は冷媒、コンプレッサーを使用せず、小型・軽量化ができ搬送振動などに強いペルチェ素子を用いた電子冷却方式で外部電源あるいは内蔵電池で駆動する。

② 扉は電磁ロックで施錠しふた扉の開閉を記録するなど、軽量化と即時記録性を確保した。

③ 庫内温度は1分間隔で内臓の不揮発性メモリに21日間記録し、扉の開閉、電源管理、アラーム情報も記録する。また、これらの記録は専用ソフトとUSBコードを用いてエクセルデータやCSVデータとして取り出し検証することができる。

など、すべての条件をクリアする技術応用の工夫につながった。

## 小笠原ブラッドローテーションシステムとは

このATR－700の開発により緊急時の異型適合輸血のためにO型＋の赤血球製剤2パック4単位をこのATR－700に保管し、東京都赤十字血液センターから定期的に小笠原村へ赤血球製剤が運ばれ、これを小笠原村診療所に備蓄できるようになった。

ATR－700の扉を開けなければ製剤の品質が担保され、期限切れ前に東京都赤十字血液センターに戻すことができ、検品後に再出庫され都内の医療機関にて使用されることが可能となった。

これは、血液製剤の搬送保管の従来の常識を覆す画期的なものである。

現時点で、すべての血液が再出庫され、非常に低い廃棄率での運用ができている。

## 小笠原と離島医療の未来に心を寄せて

輸血治療が、患者の生命予後の改善につながって、初めてBlood Rotation計画は成功したといえる。

その後の経過をまとめると

○平成26年4月、父島での備蓄・運搬開始

○平成26年12月9日（小笠原ブラッドローテーション）開始

○平成27年6月東京消防庁防災ヘリコプターへのATR－700搭載実験が完了

○平成28年2月父島での緊急輸血で、ATR－700備蓄血を初めて使用

○平成28年5月ATR－700を都立広尾病院が配備。伊豆諸島・小笠原諸島への緊急搬送時運用開始

東京都保健福祉局　疾病対策課　献血移植係　医療調整係による島しょ輸血マニュアルの作成。

○平成29年度　厚生労働省、へき地離島の輸血医療体制に関する研究班、委員会等の設置・検討予定。

現時点で、四人の患者に備蓄血を使用し、救命している。

このローテーションシステムは、血液製剤という物だけでなく、人のつながりにもなっており、多数の機関にサポートを頂いている。特に、継続した勉強会の開催には、東京都赤十字血液センターには多大なご協力を頂いている。

ATR－700可搬型冷蔵庫を使用した血液製剤の搬送は、救急災害医療、在宅医療、産科危機的出血、航空医療への応用も期待される。そして、現在、小笠原村の関係者共通の悲願は母島への本システム導入の早期実現である。父島よりも少ない母島診療所医療スタッフが、安全に対応できる仕組みを念頭に関係機関とより一層タッグを組んで取り組み、医療課題の解決の一助となることを願い「小笠原ブラッドローテーション」のご紹介とします。

## 皆様ありがとうございました

～平成29年4月30日まで

▼法人特別賛助会費

▽五口
㈱ドラムエンジニアリング

▽一口
㈱ナショナルランド

▼個人特別賛助会費

▽五口
谷川　浩也　鍋島　茂樹

▽四口
渋井　信和

▽三口
岡　小枝子　森田　裕一　滑川　進
英　辰次郎　桐山　丈司　古橋　雷太
小久保　久　三原　實　隠田　房蔵
宇野澤　晃　稲垣　勇　稲垣　政孝

▽二口
名倉　衡　峯元　啓光　矢野　末義
佐藤　成美　米澤　義正　石井　善博
篠崎　弘征　栗本　道雄　林眞　一郎
林　道男　川島　隆之　山川　泰二
阿部　孝　大沼　徳吉　村田　憲一
洞庭　勝男　海老根鐵男

▽一口
成田　惣一　成田　安子　野呂　雅敏
矢崎芙美子　三浦　和夫　初見　和成
板谷亜紀子　石川　政明　正井　彰俊
鈴木　康一　若澤　勲　宮崎　仲子
山海　保　大槻　智之　池田　衿子
河鰭　一誠　慶野　義尚　森下　美津
安部　倫世　荒牧　正子　飯塚　雄三
岩佐　昇　宇賀神秀夫　鵜沢　保雄
大島　文彦　奥秋　彰一　金田　亘
菊池　弘毅　小竹　豊　小林　安茂
近藤　匠　佐々木　昭　重田　廣幸
志村　尚樹　鈴木　謙寿　錢谷　正勝
高橋　保夫　田中　啓公　長谷川　馨
田中　俊行　中島　斉子　中田　智子
橋本　敦史　長谷川聡子　浜野　浩司
廣清　輝一　宮　武彦　山内　隆夫
横山　辰巳　仁木　卓　神山　武史
鈴木　一矢　浅野　堅一　天谷　敦
飯田　福実　飯沼　由美　池田　孝子
石井　正則　石川　咲生　石原　俊
泉谷　吉信　井出　和夫　伊藤きよ子
伊藤　政行　稲垣　賢　今井　健夫
大川よし子　太田　建一　岡本　恭広
浦田美喜子　片寄　陽平　菊池　武
上江二三男　熊坂　文夫　小出　査文
小林　晶市　小室　雄紀　小山　弘光
齋藤　高志　坂本優美子　佐藤　忠義
澤　哲也　澤田　實　島崎　勉
島崎　広光　清水　政雄　菅谷　治喜
諏訪　恵　高井　博英　高島　幸夫
田澤　正史　田辺　晴久　田村　悦子
旦野　敦子　對馬　秀子　天明　孝志
新関　厚　馬場　俊和　羽下　忠男
平塚　好則　松木　一雅　水落　一穂
山田　正一　若山ゆかり　沖山　和彦
古味　宏之　永田　朋之　田中　知己
内田　愛佳　鎌田　嘉彦　稲垣　稔
飯塚　晃一　岩井亜希子　川田　裕士
出口　智弘　関口奈津子　菅　美良
高村あゆみ　堤　清樹　駒井　政公
鈴木　憲治　狩野　正子　藤井　秀一
宮田　靖子　加藤　正樹　椎野　雅子
飯塚　吉喜　飯塚　優子　浅沼　俊夫
荒舩　正三　石井ナリ子　稲垣　強
井上　佳彦　老沼　宏二　小川　誠
柿沼　正晃　笠井　幸枝　片寄　孝子
加藤　謙三　加藤　保佳　唐澤　正博
川北　和徳　川島フサ子　櫛田　眞昭
熊谷　直一　小島　章弘　小嶋　稔光
五味　金臣　小柳　誠　斎藤　久雄
斎藤　羊子　佐藤　信秀　三瓶　清晴
椎名　智代　塩野　忠弘　志水　清子
荘子　敏光　荘子　利枝　須田　英子
袖山　豊明　玉木　純雄　長島　俊彰
中村　豊　七井　正敏　袴田　知宏
浜川喜美隆　深川　久夫　星野　勢
皆川　重次　持丸　茂　森田　公弘
山田喜代子　山田　孝弘　手塚　崇
奥原　正人　鷲津　数聖　伴　優子
山崎由美子　金村　貴永　金村　夕香
細井　優　西山　深雪　渡邊　綱助
木村ネルソン　秋葉　穂　小林　哲
小峰　武　斉賀　孝一　高石　善久
田口　啓子　中山　知子　土屋　道子
登坂　洋介　中島亜矢子　平沢　甲一
正木　庸寛　三浦　爽　村津　徳洋
村津　富子　森内真理子　矢崎　良子
山下　保博　下村　彰　青木葉吉樹
青木葉仁美　池田　有　菊田　薫
浅田美津子　岸　拓矢　小林　正至
大久保勝司　新谷　将夫　袖山　直樹
小野寺園子　高橋　博　田阪　敏彦
鶴崎　隆一　中島　弘道　中山　美樹
長本　義紀　長本　沙織　馬場　邦夫
坂東　和子　森　俊一　東　美香
藤田　和紀　藤田かおる　安井　禎
山部　正子　山部　耀介　吉田　不曇
渡辺　啓二　和田　正幸　米田美沙緒
岩本　聡志　岩本　潤子　大森　國裕
安藤　英二　岩瀬　雄介　宇佐美秀幸
荻野　雅美　神山　仁　郡　彪
郡　百代　後藤　乾一　佐藤　勉
渋川　俊　竹割　康夫　中西チエ子
沼尾　益男　林　隆雄　原　昌子
高橋　義勝　藤本　武文　星野　宏充
堀内　幸一　堀内　晶子　森澤　正範
森本　義光　山田　真　山田　雅文
吉越　盛男　小島　泰史　小島　朗子
坂口　京子　青山　千津　青山　ゆう
大平カール　岡野　貞二　小田　知子
川上　菊夫　鈴木　末子　小宮山さだ子
齋藤　健　佐藤　一始　志村　啓文
瀬川　富久　高橋　泰之　高橋なほみ
栃木みよし　中島　隼人　中堀　康弘
那倉　光　松井　加奈　溝田　敦子

| 平成29年6月1日現在 （　）内は前年同月 | |
|---|---|
| 住民基本台帳登録者数 | |
| ○世　帯 | 1,497世帯 |
| | （1,489世帯） |
| 父　島 | 1,227世帯 |
| | （1,226世帯） |
| 母　島 | 270世帯 |
| | （263世帯） |
| ○人　口 | 2,629人 |
| | （2,585人） |
| 父　島 | 2,158人 |
| | （2,113人） |
| 母　島 | 471人 |
| | （469人） |

| 平成29年5月気象状況 （　）内は前年同月（父島） | |
|---|---|
| 最高気温 | 28.7℃ |
| | （29.8℃） |
| 最低気温 | 16.3℃ |
| | （18.4℃） |
| 平均気温 | 24.2℃ |
| | （24.7℃） |
| 平均湿度 | 83％ |
| | （81％） |
| 月降水量 | 233.0㎜ |
| | （63.0㎜） |
| （気象庁　ホームページ） | |
| 平成29年5月中の來島者数 （　）内は前年同月（父島） | |
| 定期船 | 2,747人 |
| | （1,960人） |
| 観光船 | 320人 |
| | （806人） |

※お詫び　機関紙第213号でお知らせした平成28年5月の来島者数に誤りがありましたので、正しい数に訂正しました。

村松　孝　安井　忍　駒場　宏典
篠原　弘奈　矢島　洋一　矢島　温子
伊藤　優美　稲津　信子　内田裕美子
金刺　雅道　金刺美代子　細井　聖子
岡村　小鉄　弦巻　悠也　佐原　一拓
広瀬　孝雄　広瀬　敦子　坂田　俊行
相宮　良成　明石　栄次　浅沼　幸子
浅沼　聡　小豆畑　準　安蒜　正夫
今園　信幸　上野　裕代　大滝　茂美
尾田　俊雄　川﨑　信行　川﨑　博子
神田　豊　倉田　信　佐藤　充
城下　治子　高橋　和志　髙本　義也
田村　茲　田村　慎恵　手塚　洋
萩原　勉　平田　章　宮本　照子
深川　良治　深川　悦子　村瀬　清之
望月　啓司　横瀬　邦雄　中戸川哲哉
逸見亜希子　阿部　千智　天野　安秀
川瀬　航司　菊地　敬子　熊谷　幸男
高村　和明　高村たかね　德田　匡泰
武市美恵子　眞内　敏行　山田　紫織
依光　桃子　渡辺　健　矢部　真吾
矢部　朋子　玉井由紀則　菊地　英明
小山外美子　佐藤　永隆　渋谷　章規
渋谷　庸子　田中　康子　熊谷　隆
橋本かおり　宮川　憲也　宮川　治人
山口　広美　山口　玲子　山中　優子
成田　浩　竹内　成弘　浅見　誠
浅見　まり　奥山登喜子　小泉　克己
清水　一雄　新川　彰　鈴村　淳一
高橋　三弥　竹内　浩美　田村　三男
矢花　薫　若澤　美義　渡邉　優子
荒牧　勝幸　荒牧　公加　荒牧　岳晴
遠藤　宏　浅沼　昭雄　小豆畑淳子
石川　恵子　石川　由子　大津　陸郎
大津　茂子　尾上　洋子　小本　創
木村　陽子　島方　優　小松　茂
原田　知香　小濵　哲二　皆尾　幸司
渡辺　圭子　池端　薫　川田　弘子
石井　良則　榎本　泰雄　大平　京子
小野　康夫　小澤　弘美　金川　美代
菊池　アサ　谷　貢　佐々木日出子
佐藤　謙治　杉本　隆幸　田中　尚子
辻　トメ子　富山　香子　富山　裕司
延島　冬生　増山　一清　箭内　浩彌
山根　健一　宮川メーリ・ヂュン
小橋　弘道　今村　壮壱　今村　祐可
赤間　巌　赤間　泰子　秋元　篤司

今井　寛治　今井美代子　奥原　芳雄
木村　武史　杉　孝一　瀬堀　エル
長倉　正治　浜中　昭　水野　勇
宮尾麻衣子　宮尾　杏子　山口　順治
吉田啓以子　中村　健吾　岡本　良一
島本浩一郎　浅沼　孝之　浅沼　幸恵
工藤　雅之　工藤まゆみ　熊木　なつ
菊池はな子　榊原　邦彦　佐藤　洋美
佐藤　洋子　佐々木哲子　佐藤　洋美
石山　進　阿部　哲人　田中　隆三
柴内　康吉　武市　定雄　小屋　功一
寺田久美子　藤島　拓実　寺田　健一
秋田智恵子　一瀬　秀樹　吉川　修
刈谷ヤス子　今野　康一　楠　美帆
宮川　正美　鈴木　一史
清宮眞知子　工藤智恵美　森　康正
中村健次郎　酒寄　靖子　一木　重夫
長谷部マチ子　奥山　雅敬　張本　達宏

▼新規入会者
野中　慶　野中　恵里　大林　隆司
横本　雅彦　大野　義彰　大野　八重
田中　博康　尾形美保子　長澤　潤一
滝沢　恵美　岩瀬　正樹　岩瀬佳代子
深沢　智　深沢　宏美　前原　利行
塩谷　好広　小室　吉隆　小室ゆかり
中植　裕美　角田　聰　角田　郁子
伊澤　陽一　原　友美　和田　效男
多田　昭子　長澤　茂晴　山内　香奈
木下　議饒　木下芙美子　倉田　洋子
三森　久子　栗原　淳子　栗原　文雄
山本　造通　伊藤　裕子　浅沼　更企
乾　幸子　伊原　宗義　井川　清
大津　英雄　大津由美子

▼寄付金
▽H29年新年号広告（三万円）
環境保全㈱
▽特集号広告（三万円）
㈱ドラムエンジニアリング
▼寄付金（個人）
谷川　浩也　安藤　光一　奥山　勲
浦田美喜子　銭谷　正勝　井尻　清男
桐山　丈司　浅沼　更企

万が一、未掲載の失礼がありましたら次号掲載しますのでご一報ください（掲載順不同）

## 小笠原の島レモンがチューハイになりました！

母島産の島レモンを使用したビン入りプレミアムチューハイ【タカラ「産地の恵み」〈小笠原島レモン〉】（アルコール分8％）が5月23日（火）に宝酒造株式会社から、地域限定・数量限定で発売されました。

島レモンならではの心地よい酸味とさわやかな果汁が特長で、竹芝客船ターミナル内の売店や、6月2日竹芝発便からは、おがさわら丸の船内ショップでも、販売を開始しています。

竹芝のアンテナショップ「東京愛らんど」での売れ行きも好調とのことです！

## 賛助会員を募集しています！

日頃より、小笠原協会の事業にご理解とご協力をいただき心よりお礼申し上げます。

当協会は、昭和20年の終戦後一貫して島の返還、島民の帰島支援に努めてきました。返還50年を目前に、今後は、当協会が所蔵する返還前後の貴重な資料を基礎に、さらに収集・保全し、広く発信するように努めます。皆様からの賛助会費および寄付金は、こうした活動や機関紙「小笠原」の発刊などに活用しています。

小笠原を愛する方、興味をお持ちの方、賛助会へのご入会をお待ち申し上げています。

入会は、インターネットで当協会HPのトップ画面から「会員募集」→「賛助会員になるには」をご覧ください。（http://www.ogasawarak.org/）お電話（03―3432―4921）でのお問い合わせやお申込みも行っております。

## おがさわら丸　割引について

割引の対象は、小笠原諸島の旧島民及びその子孫・関係者と小笠原村以外に居住する賛助会員の方です。

当協会で証明書を発行しています。

詳しくは、お電話でお問い合わせください。

### 訃　報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

菊池　武治　様　94歳
平成6年1月31日ご逝去
父島大村出身

若澤　初男　様　91歳
平成28年8月29日ご逝去
母島出身

押味　芳江　様　87歳
平成27年1月ご逝去
父島大村出身　旧姓　柏木

## 小笠原航路時刻表

（平成29年7月～29年12月）

ハートロック（千尋岩）

| 運航月 時刻 | 東京発 | 父島着 泊 | 父島泊 | 父島泊 | 父島発 | 東京着 | 父島泊数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 11:00 | 11:00 | — | — | 15:30 | 15:30 | |
| H29 7月 | 5㈬ | 6㈭ | 7㈮ | 8㈯ | 9㈰ | 10㈪ | 3泊 |
| | 12㈬ | 13㈭ | 14㈮ | 15㈯ | 16㈰ | 17㈪ | |
| | 19㈬ | 20㈭ | — | — | 20㈭ | 21㈮ | 父島折り返し |
| | 22㈯ | 23㈰ | — | — | 23㈰ | 24㈪ | |
| | 26㈬ | 27㈭ | — | — | 27㈭ | 28㈮ | |
| | 29㈯ | 30㈰ | — | — | 30㈰ | 31㈪ | |
| 8月 | 2㈬ | 3㈭ | — | — | 3㈭ | 4㈮ | |
| | 5㈯ | 6㈰ | — | — | 6㈰ | 7㈪ | |
| | 9㈬ | 10㈭ | — | — | 10㈭ | 11㈮ | |
| | 12㈯ | 13㈰ | — | — | 13㈰ | 14㈪ | |
| | 16㈬ | 17㈭ | — | — | 17㈭ | 18㈮ | |
| | 19㈯ | 20㈰ | — | — | 20㈰ | 21㈪ | |
| | 22㈫ | 23㈬ | — | — | 23㈬ | 24㈭ | |
| | 26㈯ | 27㈰ | 28㈪ | 29㈫ | 30㈬ | 31㈭ | 3泊 |
| 9月 | 1㈮ | 2㈯ | 3㈰ | 4㈪ | 5㈫ | 6㈬ | |
| | 8㈮ | 9㈯ | 10㈰ | 11㈪ | 12㈫ | 13㈬ | |
| | 14㈭ | 15㈮ | 16㈯ | 17㈰ | 18㈪ | 19㈫ | |
| | 20㈬ | 21㈭ | 22㈮ | 23㈯ | 24㈰ | 25㈪ | |
| | ※1 26㈫ | 27㈬ | 28㈭ | 29㈮ | 30㈯ | ※1 10/1㈰ | |
| 10月 | 4㈬ | 5㈭ | 6㈮ | 7㈯ | 8㈰ | 9㈪ | |
| | 11㈬ | 12㈭ | 13㈮ | 14㈯ | 15㈰ | 16㈪ | |
| | ※2 18㈬ | 19㈭ | 20㈮ | 21㈯ | 22㈰ | ※2 23㈪ | |
| | 25㈬ | 26㈭ | 27㈮ | 28㈯ | 29㈰ | 30㈪ | |
| | 31㈫ | 11/1㈬ | 11/2㈭ | 11/3㈮ | 11/4㈯ | 11/5㈰ | |
| 11月 | 8㈬ | 9㈭ | 10㈮ | 11㈯ | 12㈰ | 13㈪ | |
| | 15㈬ | 16㈭ | 17㈮ | 18㈯ | 19㈰ | 20㈪ | |
| | 23㈭ | 24㈮ | 25㈯ | 26㈰ | 27㈪ | 28㈫ | |
| | 29㈬ | 30㈭ | 12/1㈮ | 12/2㈯ | 12/3㈰ | 12/4㈪ | |
| 12月 | 5㈫ | 6㈬ | 7㈭ | 8㈮ | 9㈯ | 10㈰ | |
| | 11㈪ | 12㈫ | 13㈬ | 14㈭ | 15㈮ | 16㈯ | |
| | 17㈰ | 18㈪ | 19㈫ | 20㈬ | 21㈭ | 22㈮ | |
| | 23㈯ | 24㈰ | 25㈪ | 26㈫ | 27㈬ | 28㈭ | |
| | ※3 29㈮ | 30㈯ | 31㈰、1/1㈪、1/2㈫ | | 1/3㈬ | ※3 1/4㈭ | 4泊 |

※1　館山寄港（予定）/ 寄港便の父島着と東京着は30分遅延となります。
※2　大島寄港（予定）/ 寄港便の父島着と東京着は30分遅延となります。
※3　父島4泊便

◎問い合わせ先　小笠原海運株式会社　03-3451-5171

## さあ！母島へ行こう

### 母島への航路（ホエールライン）

母島は父島の南約50kmに位置しその広さは約21㎢です。島の中央に乳房山（463m）があり島の周囲は58kmあります。母島を観光される方は、**下記の時刻表で訪島してください。**

沖港

（平成29年7月～29年12月）

| 運行月 時刻 | | おがさわら丸 父島 入港日 | | おがさわら丸 父島 入港の翌日 | | おがさわら丸 父島 出港日 | おがさわら丸 父島 入出港日 | | その他の日 | 運休日 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 運行時刻 | 父島出港 | 12:00 | 9/27は12:30 | | 7/21、28 8/4、11 8/18、24は下記の時刻で運行 | 7:30 | 7:30 | 13:30（14:00） | 7:30 | |
| | 母島入港 | 14:00 | 14:30 | | | 9:30 | 9:30 | 15:30（16:00） | 9:30 | |
| | 母島出港 | | | 14:00 | 15:00 | 12:00 | 10:30（10:00） | 16:00 | 14:00 | |
| | 父島入港 | | | 16:00 | 17:00 | 14:00 | （12:00）12:30 | 18:00 | 16:00 | |

| 運行日 | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | H29 7月 | 6㈭ 13㈭ | 7㈮ 14㈮ 21㈮ 28㈮ | 2㈰ 9㈰ 16㈰ | 20㈭ 23㈰ 27㈭ 30㈰ | 1㈯ 8㈯ 15㈯ 22㈯ 29㈯ | 4㈫ 11㈫ 17㈪ 25㈫ | 5㈬ 12㈬ 19㈬ 26㈬ | 3㈪ 10㈪ 18㈫ 24㈪ 31㈪ |
| | 8月 | 27㈰ | 4㈮ 11㈮ 18㈮ 24㈭ 28㈪ | 30㈬ | 3㈭ 6㈰ 10㈭ 13㈰ 17㈭ 20㈰ 23㈬ | 1㈫ 8㈫ 15㈫ 22㈫ 29㈫ | 2㈬ 9㈬ 16㈬ 25㈮ | 5㈯ 12㈯ 19㈯ 26㈯ | 7㈪ 14㈪ 21㈪ 31㈭ |
| | 9月 | 2㈯ 9㈯ 15㈮ 21㈭ 27㈬ | 3㈰ 10㈰ 16㈯ 22㈮ 28㈭ | 5㈫ 12㈫ 18㈪ 24㈰ 30㈯ | 7/20、7/27、8/3、8/10、8/17、8/23は（　）の時刻で運行 | 1㈮ 8㈮ 17㈰ 26㈫ | 4㈪ 11㈪ 20㈬ 29㈮ | 7㈭ 14㈭ 23㈯ | 6㈬ 13㈬ 19㈫ 25㈪ |
| | 10月 | 5㈭ 12㈭ 19㈭ 26㈭ | 6㈮ 13㈮ 20㈮ 27㈮ | 8㈰ 15㈰ 22㈰ 29㈰ | | 2㈪ 7㈯ 14㈯ 21㈯ 28㈯ | 3㈫ 9㈪ 17㈫ 24㈫ 31㈫ | 4㈬ 11㈬ 18㈬ 25㈬ | 1㈰ 10㈫ 16㈪ 23㈪ 30㈪ |
| | 11月 | 1㈬ 9㈭ 16㈭ 24㈮ 30㈭ | 2㈭ 10㈮ 17㈮ 25㈯ | 4㈯ 12㈰ 19㈰ 27㈪ | | 3㈮ 8㈬ 15㈬ 22㈬ 29㈬ | 5㈰ 11㈯ 18㈯ 23㈭ | 7㈫ 14㈫ 21㈫ 26㈰ | 6㈪ 13㈪ 20㈪ 28㈫ |
| | 12月 | 6㈬ 12㈫ 18㈪ 24㈰ 30㈯ | 1㈮ 7㈭ 13㈬ 19㈫ 25㈪ 31㈰ | 3㈰ 9㈯ 15㈮ 21㈭ 27㈬ | | 2㈯ 8㈮ 14㈭ 20㈬ 26㈫ | 5㈫ 11㈪ 17㈰ 23㈯ 29㈮ | | 4㈪ 10㈰ 16㈯ 22㈮ 28㈭ |

※便により運航㈰時が異なることがございますので、必ず事前にご確認ください。

◎問い合わせ先　伊豆諸島開発株式会社　☎03-3455-3090

帰ろう心の故郷へ！　行こう念願の島へ！！